英語教育における課題遂行能力の養成



投野由紀夫(東京外国語大学)

国際交流基金日本語国際センター25周年記念シンポジウム 「課題遂行を出発点とした言語学習デザイン」 2015年2月1日(日)



アウトライン

- CEFR-J 開発の経緯
- CEFR-J 開発の工程
- CEFR-J 利用環境の整備
- コーパス基盤の参照レベル記述
- まとめと今後の方向性

5/02/01 (c) 2015 V Tono





CEFR-J のできるまで

2004 - 2007年度:基盤研究(A) [小池生夫先生 代表]

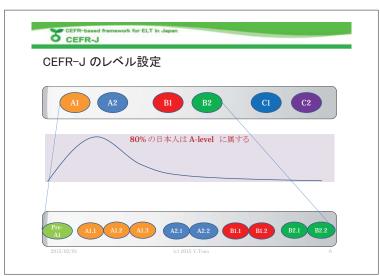
- □ 「到達すべき英語力指標」に関する実態調査
 - ⇒ 社会人約7000人、SEL-Hi約100校、中高一貫150校、小学校約350校
 - ⇒ 海外調査 & 韓国、中国、台湾の英語指導要領・教科書分析
 - → CEFRの影響力を認め、その導入可能性の研究が重要と認識

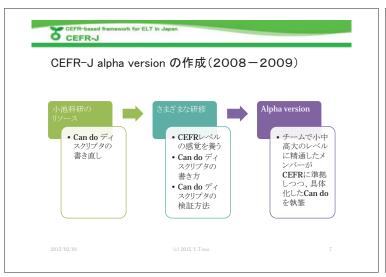
2008 - 2011年度: 基盤研究(A) [投野由紀夫 代表]

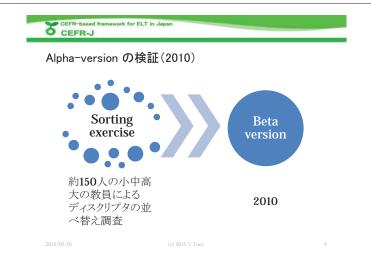
- □ CEFR の本格導入のためプロジェクト名を「CEFR-J」と命名
 - * CEFR準拠でかつより細分化した枠組みの提案
 - ☆ CEFRレベルの細分化を科学的に行う、という目標
 - ♦ Version 1 の一般公開(2012年3月)

2015/02/01 (c) 2015 Y.Tono









CEFR-based framework for ELT in Japan CEFR-J

Beta-version の検証(2011)

- 項目応答理論を用いたcan do ディスクリプタの検証
 - 。先行例:
 - 熊本大学のGPのコンピーテンシーMapの作成(2007)
 - 早稲田大学の英語チュートリアルの教材配列妥当性の検証 (2007)
 - 慶応大学の英語教育改革(日本教育測定研究所)
- 2 パラメーター・ロジスティック・モデル

$$p_j(\theta) = \frac{1}{1 + \exp(-Da_j(\theta - b_j))}$$

 $\mathbf{a}_{j} = \text{Item Discrimination; } \mathbf{b}_{j} \text{= Item Difficulty}$

2015/02/01 (c) 2015 Y.Tono 9

CEFR-based framework for ELT in Japan CEFR-J

Beta-version の検証(2)

• オンライン・アンケート

(例)アンケートの例 なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について尋ねたり、答えた りすることができる。

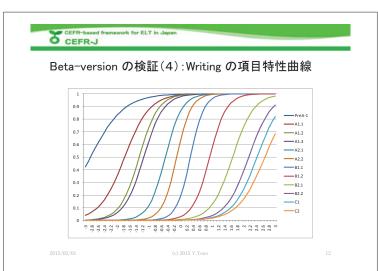
 1. よくできる
 2. できる
 3. できない
 4. 全くできない

● 中学生 1,685名 :pre-A1 ~ A2.2

● 高校生 2,538名・大学生 1,245名 :全項目

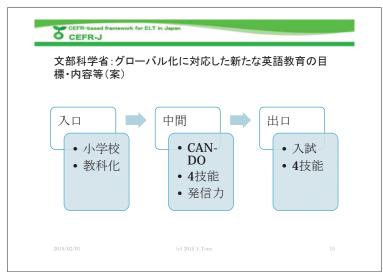
015/02/01 (c) 2015 Y.Tono 10











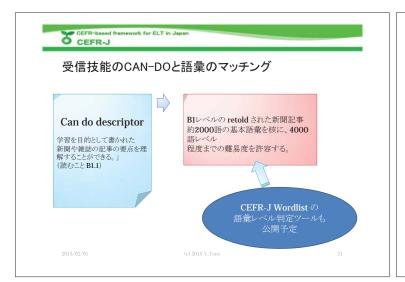








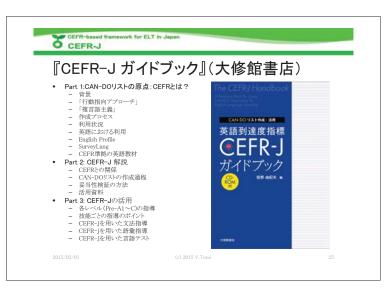




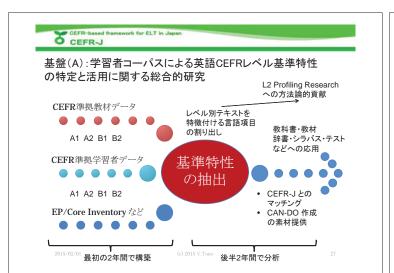


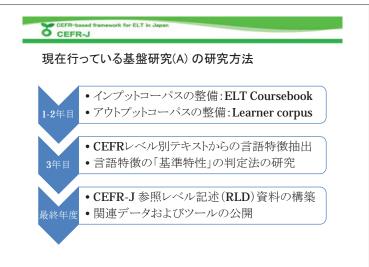


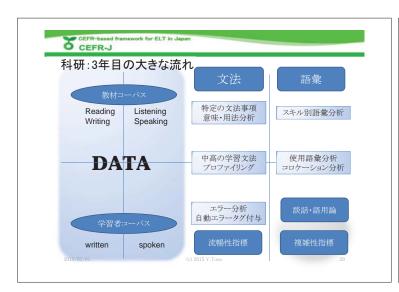


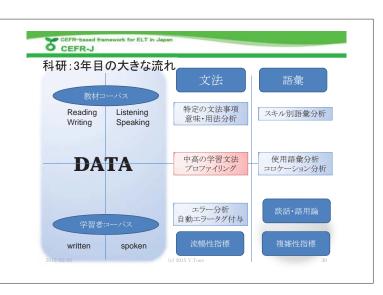


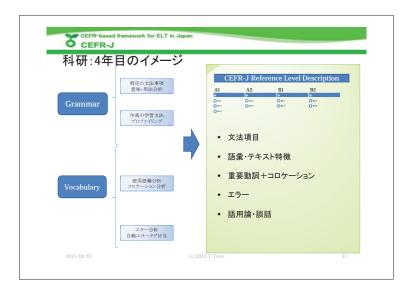




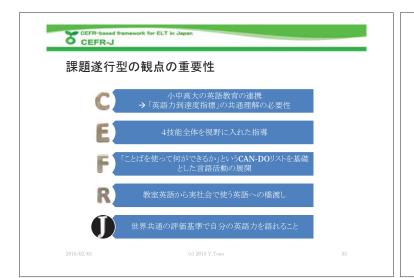




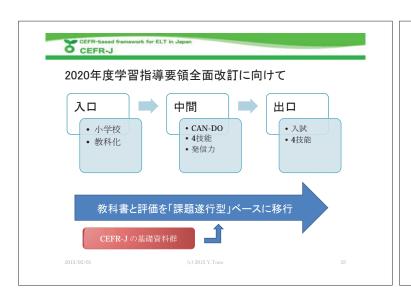


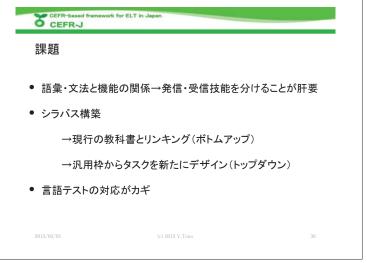














ご清聴ありがとうございました

投野由紀夫 y.tono@tufs.ac.jp

2015/02/01 (c) 2015 Y.Tono 37